

## 成長期待企業 の イチオシ!

中小企業支援ネットひょうごは成長性を見込んだ企業を「成長期待企業」として選定し、複合的な支援を実施。頑張る企業が誇る製品を紹介します。

# 石英ガラス製品

株式会社双英理研

## マシニングセンターを用いた 高い精度の研削加工と 小ロット生産、短納期で強み

石英ガラスは通常のガラスに比べ透明度が高く、耐熱性、耐熱衝撃性に優れ、薬品などに強い耐酸性を持ち、光ファイバーなどに欠かせない材料として多く用いられています。原料となる石英は大半が米国産で、熔融された後に型に流し込まれ、パイプ状や円筒状になっています。同社ではこれを仕入れて加工し、実験分析用のピーカーやフラスコ、半導体製造機器の部品などを製造しています。

材料から設計図面通りの形状に変えていくには、火炎と研削の二つの加工方法があります。古くから用いられてきたのは火炎加工で、旋盤に挟んで回転させた石英のパイプにバーナーで約2,000度の火炎を当て、カーボンの治具を使って形状を作っていきます。

「近年は顧客からより高い精度が求められるようになっており、10年ほど前からマシニングセンターを新たに導入し、火炎加工を終えたところからさらに削って精度を出しています」と副工場長の宮崎

純一さん。その研削加工では、金属加工で使われるNC制御のマシニングセンターを操作します。ただ、金属を加工するときのように強い圧力を一度に加えると破損してしまうため、徐々に圧力を加えながら削っていく難しさが 있습니다。同社はこのマシニングセンターを使って、石英ガラスだけでなくセラミックの加工も並行して行っていることが特長です。「石英ガラス、セラミックともにほとんどが1点から小ロット生産で、短納期に対応できることも強み」と常務取締役工場長の今田義治さんは話します。

後継者難で多くの同業他社が廃業を余儀なくされる中、同社では20代の職人や、女性も活躍しています。「あらゆる分野で石英は欠かせない商品。新たな取引先を開拓する一方、技能を伝承し、事業を永續させていけばチャンスは広がる」と今田工場長。「いずれは海外にも販路開拓のチャンスを求めていきたい」と意欲を見せています。



約2,000度の炎を当てて石英を加工する



マシニングセンターを使ったセラミックの加工

◎株式会社双英理研の  
石英ガラス製品

株式会社双英理研 / 所在地: 尼崎市三反田町2-7-37 / 代表取締役社長: 川嶋幹生  
事業内容: 石英ガラス、セラミックの加工  
TEL 06-6426-8057 / URL <http://www.soueiriken.co.jp/>

### 編集後記

「成長期待企業のイチオシ」で取材した双英理研。2,000度の炎を吹き付けて石英の形を変える火炎加工の現場は、とても迫力がありました。工場長の口ぶりから、この加工を手掛けていること、そして技術を継承できていることへの強い自負を感じました。

# JUMP

2018年6月号 平成30年5月30日発行  
発行人: 赤木正明 編集人: 安部則行

### 明日へ飛躍する企業をサポート

ひょうご産業活性化センター通信

発行所 公益財団法人ひょうご産業活性化センター  
神戸市中央区東川崎町1-8-4  
神戸市産業振興センター1階・2階・7階

TEL 078-977-9070(代) URL <https://web.hyogo-iic.ne.jp/>